放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和　６年　2月　14日　　事業所名　ROSELLE CLUB T

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			ロッカーやテーブルの配置を工夫している	
	2	職員の配置数は適切である	6			児童発達管理責任者、児童指導員、保育士を適切に配置しシフト作成に配置を確認しながら作成している	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			バリアフリーで児童発達支援の小さい児童でも過ごしやすい環境になっている	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6			話し合いの時間をとっている	業務の振り返りは行うが目標をもっと分かりやすいよ
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			保護者からの意見があれば話しあっている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			評価表を法人のホームページで公開している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6		業務についてアドバイスがある時は職員間で共有して改善に勤めている。社内実地指導を行なっている	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			研修を受けた職員が伝達研修を行なっている	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			保護者の意見も聞きながら客観的に分析し作成している	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			保護者の意見も聞きながら客観的に分析し作成している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			プログラムを全員で話し合い決定している	運動プログラムを毎日実施しているので、より改善を図りながら充実していきます。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			プログラムのアイディアを出し合い固定化しないようにしている	運動プログラムが楽しく継続できる様に取り組んでいきます
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6			長期休暇には普段と違う活動を取り入れ楽しめるようにしている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	6			その都度、状況にあった活動を取り入れながら計画書に反映している	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			毎日、申し送りをしている。活動の内容も確認している	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			送迎後に振り返りをし情報共有をしている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			ステップ記録や申し送りシートを使用し改善に繋げている	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			送迎の際などに聞き取りしたり、電話連絡をしている	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	6			固定の活動ではなく色々な活動を取り入れ組み合わせ児童に合った支援を行なっている	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			会議の前に職員から聞き取りを行ない、児発管や児童指導員がいくようにしている	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6			送迎時に必ず児童の申し送りを行い必要なら電話での連絡も行なっている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			6		該当児童なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6			以前の状況を知り今後の支援の仕方を考えるため情報共有をしている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6			相談支援事業所などと連携をとり進めていく	該当児童なし

	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			6		他の事業所と併用してる児童については、その事業所の職員と情報共有をし支援方法を確認しているが研修などは受けられていない
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			6		感染症予防をしながら交流する機会を作りたい
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している			6	にこキッズに参加	公民館などには行ったりとしているが会議などには参加できていないので今後検討する
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			送迎時に活動内容を伝え、気になる事は保護者と連絡をとり状況をこまめに話し合い連絡帳を活用している	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	6			相談や質問があれば解決できるよう話しを聞き調べたりしている	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			契約の際に説明している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			気になる事があれば送迎時などに聞き取りしたり時間を調整し相談などの連絡をしている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6			保護者会を開催し保護者同士や職員とも交流を図れるように工夫している	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			苦情対応マニュアルを作成し意見箱を設置している。苦情があれば適切に対応できる仕組みを作っている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			毎月の予定表を作成している。	
	35	個人情報に十分注意している	6			個人情報は厳重に鍵付き書庫に保管している。外部に漏れないよう職員にも周知している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			連絡帳を活用し電話やメールでのやりとりもしている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6			地域の方を招待してのイベント等が企画出来ていないので今後企画をしていきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			マニュアルについては各委員会で定期的に見直しを行い共有している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			毎月避難訓練を開催し意識できるようにしている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			虐待防止委員会を設置し研修を行なっている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6			身体拘束を必要とする児童はいないが、必要な児童が利用につながった際には保護者に相談し対応していく	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			アレルギーがある児童のリストアップをし、全職員が確認できる場所に貼り出している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			ミーティングの際に必ずヒヤリハットを報告し共有しファイリングしている	